

町長	副町長	課長	主幹	担当	合議

別記様式第4号

会議等結果報告書					
会議区分	会議・打合せ・協議			文書番号	上富子育 第354号
				決裁期日	令和3年6月9日
名称	令和3年度 第1回子ども・子育て会議				
日時	令和3年6月8日(火) 14:00~15:00				
場所	保健福祉総合センター 2階研修室				
出席者	<p>子ども・子育て会議委員15名(別紙名簿参照) (うち松原委員リモートによる出席、村上委員欠席) 役場 齊藤町長、保健福祉課 鈴木課長、武山主幹、床鍋主幹、大井主事</p>				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開会(進行:鈴木課長) ・辞令交付 令和3年4月に職場または関係機関の団体異動により、坂本委員及び北村委員の2名に対し上富良野町長から委嘱状を交付した。欠席した村上委員については、後ほど事務局から交付する。 ・上富良野町長挨拶 本日、ご多忙のところ会議に出席いただいたこと、また委員の皆様のおかげで令和2年度の事業を無事終了することが出来たことに心から感謝申し上げます。令和3年度についても計画第2期の2年目ということで、引き続き計画にある4つの目標を掲げて事業を進めてまいりたいので、委員の皆様からご協力賜りますよう改めてお願い申し上げます。 <p>町立病院の改築に伴う子どもセンター移転の方向性について、もう間もなく皆様にお知らせできるかと思うので、少しお待ちいただけるようお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員紹介(辞令を受けた2名の委員による挨拶) <p>坂本委員…令和3年4月1日より成田前園長から引継ぎ、園長に就任した。皆様の支援をいただきながら、この会議にお力添えさせていただきたい。</p> <p>北村委員…今年度からかみふ子育てネット「くるくる」で副会長を務めている。上富良野の子どものことに係ることが出来て嬉しく思っている。</p>				

1. 委員長挨拶

松原委員長：新年度を迎え、新たな委員も加わっている。この会議では、児童福祉の推進に向けて、町の事業計画が滞りなく進むように、また対象者が利用しやすく事業を活性化することができるよう、本音で話し合っていきたいと思う。特に子育て中の委員の皆様からは、利用者の目線から忌憚のないご意見をいただきたいと思う。事業を運営する関係機関の皆様からは、運営していく上での課題など活発にご発言いただき、この会議を通してますます上富良野町の児童福祉がより一層発展していったら嬉しいと思う。微力ながら私も皆様と一緒に考えていきたい。

上富良野町長、次の用務のため退席。

以降、議事については、松原委員長が進行。

2. 議題

(1) 上富良野町子ども・子育て支援事業計画第2期について

①令和2年度の実績について…資料1 (事務局：武山主幹説明)

松原委員長 (質問) …一時預かり事業について前年度より利用者が減少しているようだが、その理由は何か？また、養育支援訪問事業及び要保護児童支援事業の実績75件に令和2年度拡充分の20件が含まれているという理解でよろしいか。

事務局…昨年度も感染拡大による緊急事態宣言の発令があり、利用の自粛があったため、新型コロナウイルスの感染拡大が大きな原因と考えている。養育支援訪問事業については、松原委員長の仰ったとおり、実績75件に拡充分の20件も含まれている。

委員からの質問・意見なし。議題について全体で確認した。

②就学前児童の居場所調査結果について…資料2 (事務局：大井主事説明)

委員からの質問・意見なし。議題について全体で確認した。

(2) 特定教育・保育施設の利用定員について…資料3

(事務局：武山主幹及び増田委員説明)

委員からの質問・意見なし。

議題について承認されたことを全体で確認した。

内 容

3. 協議事項

- (1) 上富良野町子ども・子育て会議の委員任期の延長（案）について…資料4
(事務局：武山主幹説明)

委員からの質問・意見なし。
議題について承認されたことを全体で確認した。

4. その他

事務局：令和2年度の緊急事態宣言下における子育て相談窓口についてのご案内を町行政ホームページに掲載させていただいており、この度の緊急事態宣言延長に伴い、再度ホームページで周知させていただいている。また、かみふ子育てネット「くるくる」の林会長を通して、各育児サークル代表への周知をお願いし、ファミサポにも資料提供させていただいた。不要不急の外出自粛や公共施設の利用停止等により、子育てに不安を抱えている方、孤立した中で子育てを頑張っておられる方で悩みごとがあれば、抱え込まずにお電話でお気軽に相談していただけると幸いである。

鈴木副委員長：令和2年度はコロナの影響があちこちであったのだと感じられた。令和3年度も現在の緊急事態宣言下では、影響がありそうだが、子どもたちのために努めていきたいので、今後ともよろしく願いたい。

林委員：上の子が高田幼稚園の年少クラスで通っている。自粛期間中で、仕事のない日は子どもと自宅で過ごしているが、担任の先生からお家でできる「工作セット」が届き、普段ハサミは危ないからと使わせるのを避けていたが、園でハサミを使えるようになったんだと気づききっかけになった。家時間も幅が広がり、大変ありがたく思っている。保健福祉課から子育て相談窓口の案内について連絡をいただいたり、ファミサポが孤立する親子がいらないよう一生懸命やっていたり、周りのサポートが手厚くこのような厳しい状況でも楽しく過ごさせていただきありがたく思う。

内村委員：居場所調査の年齢別就園人数について、自分は一番上の子には何でもしてあげたくて年少になるまでは、お家で育てていたが、最近の0歳児の就園率が上がってきているのには、何か理由があるのか。

事務局：以前は年少までお家で育ててからというご家庭が多かったが、近年家計のため、もしくは自らの社会参加のために、お父さんと共働きするお母さんが増えたため、低年齢で就園するお子様も増えたのだと認識している。

内 容

内 容

野原委員：娘を西こども園に預けているのだが、緊急事態宣言発令後からお迎え後に園庭で遊べなくなってしまった。娘は外で遊びたい年頃なので、お迎えの後は「たこ公園」に通っている。児童館が利用停止していることから、公園に小学生が多く来ており、娘とも遊んでくれるのだが、どうしても密になってしまう。児童館も遊べないなら公園も遊べないようにするなどしないと密は避けられない。子どもに「密にならないように遊んで」というのは難しいので、何かしらの対策を考えていかなければならないと思う。

増田委員：緊急事態宣言下で登園も保護者に対し、可能な限り家庭保育をお願いしているところであるが、保護者の皆様からご理解をいただき約半数のご家庭で自粛をいただいているところである。無償化の影響により2、3号認定児も増えているが、ご理解いただき2週にわたり土曜日の利用は0人であった。職員も最新の注意を払っているところであるが、全道・全国の認定こども園でクラスターが発生していることから、気を引き締めて引き続き対応にあたりたい。お休みいただいているご家庭に、お家で楽しめる教材やレシピをお送りさせていただいた。また、お休みしているご家庭全てに各担任から電話連絡させていただき、お子様や保護者とお話しさせていただいた。0～2歳の就園率が上がっているもう一つの要因として女性の社会参加のほかに、無償化に伴い、3歳以上の利用料がかからなくなったことから、下の兄弟の保育費に充てられるというところも大きいのではないかと考える。以前は、待機児童の問題があり早くから入園させたいという保護者がいらっしやっただが、現在は落ち着き、このような理由でお子様を預け、自分はお仕事をしようかという家庭が増えたのではなかろうかと考えている。

増田委員：高田幼稚園と同じく先週は土曜日の利用が0人であった。お休みしている家庭には、教材やレシピをお送りし、各担任からお電話もさせていただいた。自粛中について園庭の利用をお断りしているが、園庭がどこからでも入りやすく、小学生も来て密になりやすいことから、申し訳ないが期間を決めての利用停止にご協力お願いしたい。

坂本委員：さまざまな職種や町外へ通う保護者から「自分が感染したら子どもはどうしたらよいか」など質問を多くお寄せいただいております。どのように答えたらよいか職員で毎日話し合いを重ねて、みんなと同じ返答ができるように対応している。安心、安全に保育できるよう職員も感染予防に努めている。1、2歳児にはなかなか伝わりにくいかもしれないが、「手洗いは大事だよ」など、子どもたちにも新しいライフスタイルが定着するよう声掛けしている。

内 容

伊藤委員：変異株の感染が増えてきていることから、対策はしつつも職員も子どもたちも恐怖に苛まれながら過ごしている。中央保育園は、2・3号認定が多いので、可能な限りの家庭保育をお願いしているが、登園率は高い状況なので、今後も気を引き締めて感染予防していきたい。低年齢の就園率が上がっていることについて、兄弟が園に通っており、産休・育休が終了するタイミングで預ける保護者が多くなってきている状況である。

広瀬委員：ファミリーサポートセンターでは、個別の対応もさせていただき、実績のとおり利用がぐっと伸びてきている状況である。コロナ下で集団に対して不安を抱えている保護者から「個別なら預けてサポートお願いしたいな」というニーズがあるのかなと感じている。今年度少人数で過ごせる居場所ということで、私の家を開放しており、1・2組単位で過ごせる時間を作っている。今回の緊急事態宣言発令を受けてフル稼働している状況で、私たちの声を届けていただき、親子に利用していただくことで保護者の負担が軽減されている反面、声が届けられていない家庭のニーズをどのように拾っていくかが課題だと感じている。公園で遊びたいが、密を避けたい方にはぜひ利用していただきたい。発信の仕方が今後の課題である。

林委員：教育委員会は、学校教育と社会教育の2本立てで、3校の校長や道立校の校長と連携して教育振興を進めているところである。社会教育総合センターは、なかなか入りづらいと言われている施設だが、宣言解除後はお子様や保護者の皆様にご利用いただけるようお願いしたい。

藤澤委員：コロナ禍において、園の先生方や関係機関の皆様が大変なご苦勞なさっていることを改めて感じた。昔の子育てから様変わりし、0歳からの入園について考えたこともなかったが、そのような実態があることから色々なことを考えさせられる会議だった。

北村委員：未就学児が利用する居場所の選択肢があり、町外でも同じような利用できる施設や事業があるということ、また、ファミリーサポートセンター事業も充実しており、色々選ぶことができるのは良いことだと思った。赤ちゃんが年々減っているなど感じた。今年4歳児のお友達のお子さんが生まれた年に出生数が70を切ったと聞きとても驚いた記憶がある。

鈴木課長：出生数は上下を繰り返す傾向があり、今年度は前年度よりも多くなる見込みである。妊娠の届け出は、速やかに行っていただくよう取り組んでいるところである。

鈴木課長：各認定こども園や放課後児童クラブにおいて感染予防対策を日々行っているところであるが、国の補助事業で感染予防に要する経費について一部補助させていただくよう6月の議会で補正するよう対応しているところである。

林委員：ホームページに様々な情報を掲載いただいているが、自分も含めほとんどホームページを見る保護者があまりいない。育児サークルでは、それぞれのLINEを通して周知することができるが、それ以外のお母さんにどうしたら情報を届けられるだろうかと考えている。中富良野町では公式のLINEがあり、そのようなものが整備されれば、今の保護者のほとんどがLINEを利用しているので、町の情報に限らず、ファミサポの情報なども入手しやすいのかなと思う。

事務局：中富良野町に運用の状況について確認させていただきたい。

松原委員長：予防接種により新型コロナウイルスも収束に向かっているところかと思うが、上富良野町では高齢者の接種は終わっているか、他の世代についても分かっていることがあれば教えていただきたい。

鈴木課長：町民に対して、新聞折り込み並びに行政ホームページで周知しているところであるが、他の自治体からも遅れていると町民からお叱りをいただくかもしれないが、当町では介護保険の認定を受けている方を優先して接種している。昨日から2回目の接種を開始し、11日からは65歳以上の一般の高齢者の接種を開始する。当町は、予約制ではなく日程を行政区割りでご案内しており、特定健診と同じルールで行ったことから、約70からしか接種しないという連絡を受けていない。他にもう少し様子を見たいという方もいらっしゃるので、2,700人以上の高齢者が接種予定である。7月下旬を予定している16から64歳以下の皆様については、ワクチン接種は予約制となる。公式LINE及び電話予約の2方式で受け付けを進めていく。優先接種を導入していることから、高齢者施設及び障害者施設の職員については、国が示しているように優先順位を上げている。また、基礎疾患をお持ちの方についても、ご本人からの申し出により優先順位を上げている。認定こども園の先生方においても、情報提供させていただきながら、今後の対応について個別に協議させていただきたいと考えている。

松原委員長：北海道科学大学では優先的に接種できるわけではないが、病院を持っている大学の先生から話を聞くと、1回目の接種では少し腫れる程度だが、2回目は発熱する人が出ているとのこと。皆さんお子様に関わるお仕事に従事していただい

内 容

るので、情報の取捨選択していただきながら必要があれば接種していただきたいと思う。

鈴木課長：当町でも1回目よりも2回目に症状が出る方がいらっしゃる。医療従事者のデータであるが、若い方で発熱や倦怠感の症状が出る方が多く、高齢者は腫れて終わる方が多い。やはり副反応が危惧されることから、町独自で接種の際にはお薬手帳を持参していただくよう取り組んでいる。

・閉会

内 容